

スペシャルな国 インド

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

前 インド事務所長 **坂本威午**

日本政府はインド政府に対し例を見ない規模の官民投融資を約束。
ODA が事業環境整備に大きな役割を果たすことが期待される。

日本企業に空前絶後の追い風

経済成長見通しも、マーケットのサイズも、今後のポテンシャルも、揺るぎのない世界一の国、それがインドである。「こういう分野では有望性もある」といったレベルではない。相対的優位性ではなく、比肩し得るものがない絶対的優位性が認められる国である。

しかも、企業経済活動に大きく影響する日印二国間関係もスペシャルで、毎年、首脳相互訪問が制度化されているのはインドだけだ。まさに唯一無二の国である。モディ政権誕生後、その関係はより緊密になった。世界中の JICA 支援国の中で、唯一「特別」戦略的グローバル・パートナーシップとのスペシャルな協力関係を構築している。そして、5年間で3.5兆円もの例を見ない規模の官民投融資を日本政府は2014年に約束。JICAを通じた政府開発援助(ODA)も大きな役割を果たすことが期待されている。空前絶後の追い風がインド向けに吹いている。

こうしたインド向け ODA により、企業経済活動を JICA は大きくサポートしたい。

発展途上で膨大な開発ニーズ

世界一のポテンシャルを有するインドだが、ビジネス展開にはまだまだハードル、リスクがある。世界銀行等の多くのレポートが課題として指摘するインフラ不足、不透明・非合理的な法制度運用、人材育成。これらの点で JICA を活用できる。

運輸・電力・水等のインフラを、JICA を通じ

て整備すればよい。JICA の専門家派遣や研修プログラムで法制度の透明・安定的な運用のノウハウを共有できる。人材育成も然り。

インドは3億人規模の貧困層が存在する等まだまだ発展途上にあり、開発ニーズが膨大。JICA は高速鉄道等大規模インフラから保健・衛生等社会開発、さらにはボランティア等まで幅広い支援事業を積極的に推進している(図表)。インドの持続的開発、そして民間企業の方々のビジネス展開にも資するような支援に努めている。民間ビジネス展開上の具体的な課題・リスクを吸い上げることも JICA の大事な役割と任じている。

図表：JICA 協力実績例～多様なセクター

デリー・アーメダバード高速鉄道 (HSR)、デリー・ムンバイ貨物専用鉄道建設事業 (DFC)、デリーメトロ、インド全土に広がるメトロ事業への支援、上下水道セクター、電力セクター、森林セクター、農業セクター、保健セクター、製造業経営幹部育成プログラム (VLFM/CSM)、IIT ハイデラバード校、投資促進プログラム・ローン、女性支援、産業回廊開発 (デリー・ムンバイ (DMIC)、チェンナイ・ベンガルール (CBIC))、北東部支援、青年海外協力隊、草の根技術協力、民間連携

(事例/順不同)

【JICA インド事務所 HP 参照】

<http://www.jica.go.jp/india/index.html>



事業コスト・リスクを回避・低減

民間企業の方々の JICA 活用の仕方は、例えば以下のようなものが考えられる。

第1に、円借款等の JICA 支援事業での調達における受注活動。途上国での入札・契約は片務的になり、受注企業側が種々無理難題を押し付けら